宍粟市報道発表

令和4年5月 11 日

地域課題の解決へ、新ビジネスを創出

100DIVE（ダイブ） PJ（プロジェクト） 宍粟で始動

概　要	地域課題の解決に挑戦する人と地域がつながり、新たなローカルビジネスを生み出すことを目的とする 100DIVE（ダイブ）プロジェクトが５月 14 日から宍粟市内で始まります。株式会社 100DIVE（本社：東京都豊島区）が宍粟市内を対象に取り組むプロジェクト「宍粟市の資源を生かした都市部との接点づくり」を実行する参加者を募集し、全国から 11 人が集まりました。参加者が３チームに分かれて市内を巡り、森林セラピーの体験をはじめアウトドアコンテンツの現地取材などを行い、自然資源を生かしたビジネスプランを作成していきます。 **日時と内容** ・５月 14 日（土）12 時～15 時 森林セラピー体験ほか （国見の森公園　住所:宍粟市山崎町上比地 374） ・５月 15 日（日）12 時 30 分～15 時 プランの中間プレゼンテーション （フォレストステーション波賀　住所:宍粟市波賀町上野 1799-6） **今後の予定** ６月４日に再度、チームごとに現地取材などを実施し、最終日の６月 25 日に完成プランのプレゼンテーションを行います。プランが採択されたチームは、株式会社 100DIVE と共にその事業化をめざします。		
参考資料	100DIVE パンフレット		
担当者から	15 日のプレゼンテーションの取材をお願いします。		
問合せ先	所属　秘書政策課	担当　木村　智行	TEL　0790-63-3139

兵庫県宍粟市

自治体側で必要な5つの準備

３カ月のプログラム実施前・実施中・実施後それぞれのフェーズで、100DIVE 事務局と共に地域側の調整などを中心に、協働いただくイメージです。

実施テーマの検討

事務局と共にテーマと目指したいゴールの設定。

地域側の参加者募集

参加3チームそれぞれに、地域から1名のメンバーを派遣。所属などは自由。

参加者への情報提供

まちや課題に対しての詳細なインプットをセッション内で実施。

現地視察コーディネート

キーマンとのつなぎや、取材先の選定などを実施。

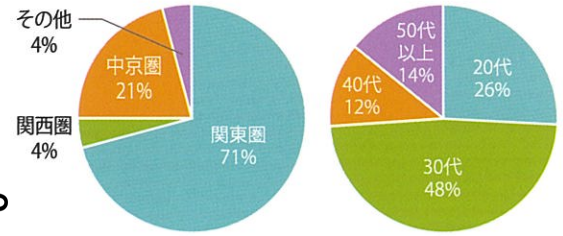
評価/実現に向けて

最終的に取り組みたいプランを選定し、実現に向けて協働。

過去参加者属性

参加者は 100DIVE 側で SNS や地域への移住希望者向けコミュニティ等で公募します。

参加者居住地



参加者年齢層

過去参加者職種

経営者　宣伝　広報　営業
総務　企画職　エンジニア
カメラマン　デザイナー

など様々なバックグラウンドを持つ方々が参加

越境型チームだからこそ、地域の内・外の視点を併せ持った環境でプランを策定し、課題解決の提案が行えます！

参加した自治体上長の声

長野県小海町
黒澤 弘 町長

オンラインを併用することで、コロナ禍でも参加者とコミュニケーションを取りながら進めることができました。この**事業の成否は、現地でどれだけ多くの方と関わることができたか**にあると考えているので、地域での交流活動がさらに活発になれば、より良い事業になると思います。**課題に対しては、全員が小海町をより良くしたいという思いを持って真剣に議論**し、最終提案を出してくれました。採択されたプロジェクトの事業化に向けて、町全体で引き続きサポートしていきます。

茨城県大子町
高梨 哲彦 町長

地域資源を活用した新たな人の流れを創出することを目的として、「古民家を活用したビジネスモデルを作る」をテーマに掲げました。**参加者も地域の皆さんも本テーマに真剣に取り組まれ、双方にとって実施した意義はとても大きい**と感じています。
採択されたチームは継続して活動しており、提案に留まらずプランの実現に繋がることを期待しています。
大子町も**チームと共に、事業化に向けた取り組みを続けていきたい**と考えています。

100DIVE

株式会社100DIVE

一般社団法人ALIVE（https://www.alive0309.org/）と株式会社さとゆめ（https://satoyume.com/）とのコラボレーション
設立：2021 年 10 月 1 日
代表者：代表取締役　庄司弥寿彦・嶋田俊平
所在地：東京都豊島区南大塚 3–36–7 南大塚 T&T ビル 6F
代表 TEL：03-5275-5105

https://100dive.co.jp/

100DIVE

意志ある人を起点に、地域の未来を考え、100のローカルビジネスを創り出すプロジェクト。

100DIVE は、ビジネスセクターの多様な人材がチームとなって社会課題の解決に取り組むプログラムを運営している一般社団法人ALIVE と、「ふるさとの夢をかたちに」をミッションとしている伴走型コンサルティング会社さとゆめのコラボレーションプロジェクトです。
10年かけ、100のローカルビジネスを実際に世に送り出すことを目指し、地域の新たな可能性を社会に発信していきます。

100DIVE誕生の背景

10年前なら「田舎には仕事がない」とよく言われていましたが、今では「仕事はあるけど、人がいない」という状況があらゆる地域で起きています。まさに、「人」がボトルネックになっているのです。そうした状況を踏まえ、①計画を立てて、②資金を集めて事業を立ち上げ、③最後に人材を集める、という“計画起点”だったこれまでの事業化のプロセスを見直し、これからは、①想いやビジョンを持った人材を発掘・育成し、②その人とともに、計画をつくり資金を集め、③その人とともに事業を立ち上げ・運営していくという、“人起点”へと転換することにしました。そのサイクルを完成させるための新たな試みの一つが「100DIVE」です。

これまでの地方創生事業

計画 › 予算 › 人材

人材がボトルネックになり、事業が動かない

これからの地方創生事業

人材 › 計画 › 予算

意志ある人を起点に、事業を設計していく

3カ月のスタートアッププログラム

約3カ月の期間で全5回のセッションを実施。「チームビルディング⇒フィールドワーク⇒最終提案⇒振り返り」までを行います。
このスタートアッププログラムを通じ、チームや地域との対話を重ねながら、創りたい未来や事業アイデアを磨き込みます。

SESSION 1

チームスタート！
（顔合わせ&テーマ理解）

目的やスタンス合わせ、進め方などをチーム内で相談して決定していきます。

SESSION 2

課題の深堀り・提案の方向性決定
（情報収集と考察、フィールドワーク）

現地に入ってフィールドワークを行い、地域の方々と直接話して方向性を改めて検討します。

SESSION 3

提案のまとめ&中間プレゼン

地域に向けて中間プレゼンを行います。最終プレゼンに向けてのリフレクションや事業計画磨き上げの場となります。

SESSION 4

最終プレゼン

地域に向けて最終プレゼンを行います。
約3カ月かけてチーム内でまとめた、最終的な課題解決の提案を伝える場となります。

SESSION 5

結果発表&振り返り

最終プレゼンで採択されたチームを発表！チーム内で振り返りの時間も設けます。

100DIVEだからこそできること

01 採択チームを中心に、推進体制構築

採択チームが中心となり、採択外チームのメンバーもスカウトしながら、推進体制を構築。
そのメンバーとさとゆめ・自治体で協議しながら、事業を動かしていきます。

02 プロトタイプづくりに向けたサポート

事業計画に合わせたサービスやプロダクトの試行版リリースに向けてチームの相談に乗りながら、計画倒れにならないようにサポート・助言を実施。必要に応じて、地域側とチームの調整なども行います。

03 事業立ち上げ資金・予算サポート

自治体内での予算化や各種補助金など、事業化に向けて活用できる財源について助言を実施。採択チームが極端な金銭的リスクを負わずにスタートできるようにすることで、実現ハードルを下げていきます。

3カ月のプログラム終了後

最終提案で各地域に採択されたチームがアイデアを形にし、事業化に向けて自走できる状態を目指し、さとゆめがサポートを実施します。

100DIVE がカバーしていくフェーズ		プログラム期間中 **3カ月間のスタートアッププログラム(事業の企画・検討)**
		プログラム期間終了後 **プロトタイプの市場リリース&事業の立ち上げ準備**
状況に応じた相談フォローアップ		プログラム期間終了後 **市場の反応を確かめながらチームで自走し事業立ち上げ** ※第1期終了後も5チーム(20〜30人)が事業立ち上げに奔走しています！

ご参加いただいたメンバーの声

茨城県大子町：A.Fさん（東京都在住）

日々の生活から離れたところで年齢や経歴といった土台が異なる人たちと出会い、同じ目標を持って交流できる機会はなかなか無いので、100DIVEに参加したことは非常に刺激的で魅力的な時間でした。
また、プログラムを通じて、**表面上からは見えない**大子町の**魅力や課題にも気づくことができた**ので、今後は一層深く大子町と関わる時間を持ち、出会った仲間とともに地域のために力になれる人材になりたいと思っています。

長野県信濃町：M.Eさん（東京都在住）

参加者がはじめに心得るプログラムの中で**「地域に対して自分たちがやりたいことを押し付けるのではなく、地域の人、地域に関わる人、地域全体がどうしていきたいのかを考える」**という事を学び、実際にプラン構築の際**「本当に地域がやりたいこと・ありたい姿」を意識**して進めていきました。
新たに出会った仲間とともに、信濃町の地域資源を最大限に活かして社会を少しでも良い方向に持っていくため、今後も信濃町やそこに関わる人たちと関係を深く濃くしていきたいです。